

社会福祉法人松溪会 2017(平成29)年度事業報告

理事長 武 居 敏

《法人としての中期的な事業方針》

法人としての中期的な事業方針は従来と大きな変更なく以下の4項目です。

① 保育サービスの質の向上

「保育所保育指針、認定こども園教育保育要領」「放課後児童クラブ運営指針」に沿った保育・教育の実践

国、市の方針等の環境変化に応じた園の経営 行政に向けたタイムリーな情報発信
保護者への積極的な子育て支援 保育環境の整備 環境を守る取り組み

② 職員の確保・育成

職員の働きやすい環境づくり 待遇の改善 計画的な研修
採用関係等対外的にタイムリーな情報発信

③ 地域への貢献(保育所、放課後児童クラブの直接的な利用者以外にも)

「地域における公益的な取組」を含む地域貢献活動の充実
地域に対するタイムリーな情報発信 環境を守る取り組み

④ 法人、事業基盤の強化

経営の把握と無駄の排除 国、市の方針等の環境変化に応じた園の経営
法人組織の強化

《2017(平成29)年度事業報告》

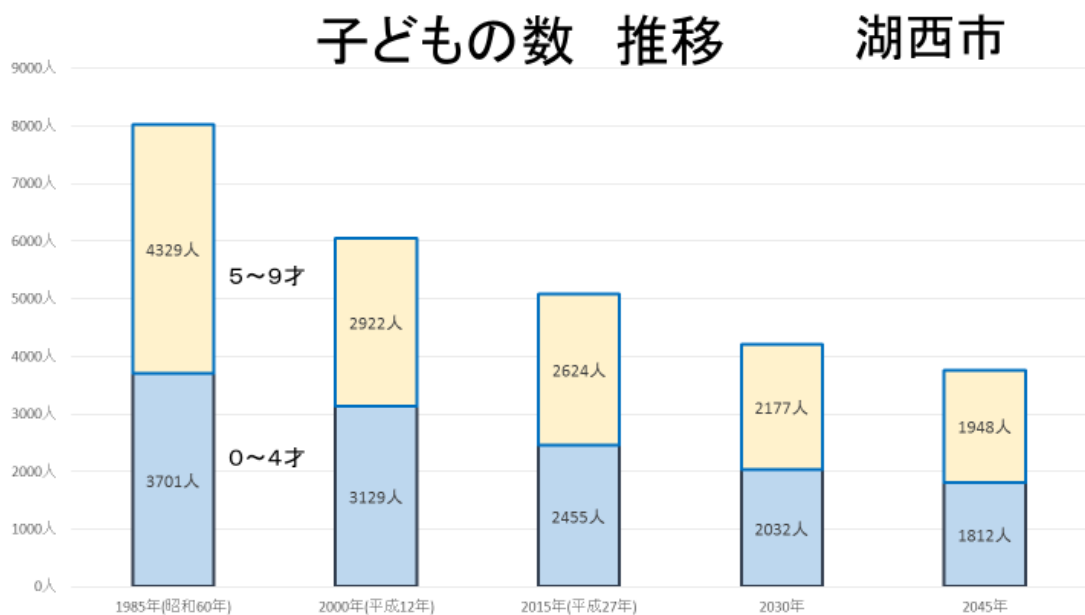
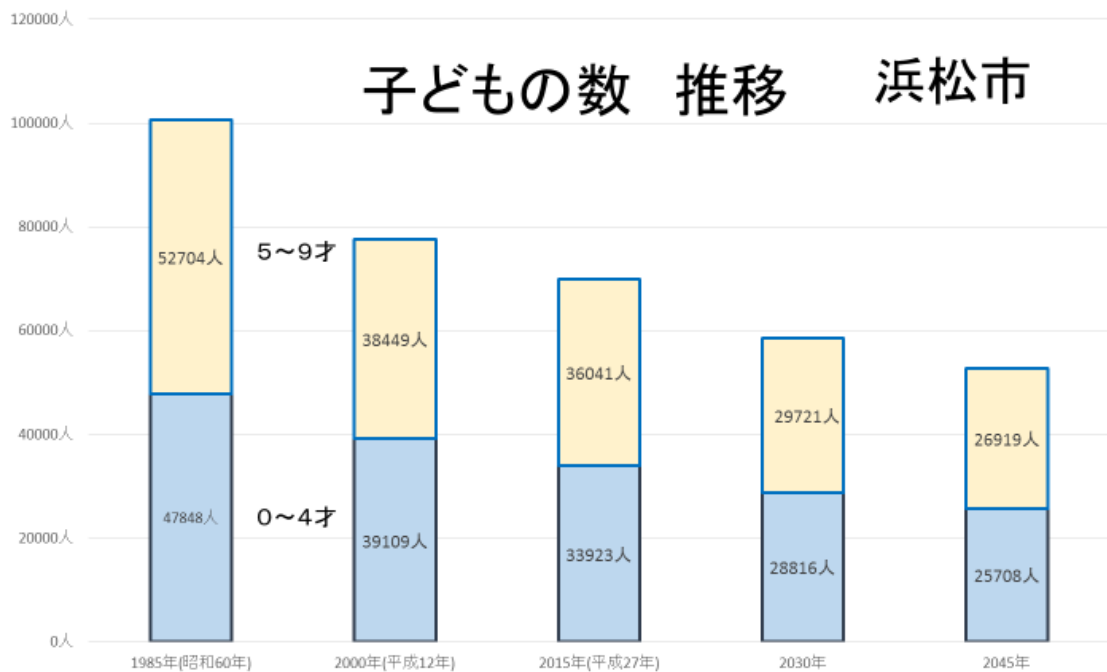
地域の保育ニーズの状況

松溪会の各施設の所在地である浜松市、湖西市の子どもの数は下表に示すとおりで、両市ともに子どもの数は減少傾向であり、公表されている推計値によると今後も10年間で10%程度が減少する予測となっています。

一方、保育ニーズは増加傾向にあり、浜松市全域の定員枠は2018(平成30)年4月には1年前より952人増となりましたが、保育施設待機児童は97人(東区は18人)と県内1位の数でした。浜松市は今後も保育需要の増加が見込まれると公表しています。湖西市の保育施設待機児童は、2017(平成29)年4月では5人、2018年度も定員枠に大きな変更はなく待機児童は5人でした。学童保育のニーズもまた、まだ減少してはいないようです。

法人全体に関わる事業報告

本年度は2016(平成28)年度に続いて、社会福祉法の改正による社会福祉法人改革への対応を実施し完了しました。これにより、新制度下の評議員会の開催、役員を選任、新理事会の開催等により、新しい組織体制での法人運営を始めまし



た。事業報告、決算、社会福祉充実残額の計算も今年度から定時評議員会により決定しました。改正法に規定された「地域における公益的な取組」についても、今までの地域貢献事業の継続と合わせて進めました。岡崎保育園では「こども食堂」（子供の居場所づくり）「ぴよぴよクラブ」（子育て支援）等の事業を、市野与進こども園では「親子ふれ愛遊び」「ベビーマッサージ」「助産師相談会」等を実施しました。

今後、地域貢献活動の継続的な実施、広報の充実をしていかなければならないものと考えます。両園を利用してもらうためには、各園が進めている保育の内容や、地域に向けて行っている様々な地域サービスを、もっと多くの市民に知ってもらうことが必要ですし、職員採用のためにも、各園の活動内容や職員の働きをさらに広報していく必要があります。

近年の経営上の大きな課題として職員の確保があります。2018年度4月の新規正規採用者は計11人（保育教諭8人）でした。新規の保育教諭の採用が年々厳しくなっています。職員確保に関しては総合的な対応策が必要だと考えますが、本年度は、職員の処遇改善のため下記を実施しました。

① **賞与**：従来の4.3か月に0.2か月上乗せして4.5か月分（本年度人事院勧告0.1か月増）を支給

② **給与**：国の処遇改善費の政策に従って大幅な待遇の改善を図りました。

- ・処遇改善等加算Ⅰ 勤続年数により全正職員に月額10,000～25,000円（非常勤職員は年額60,000円～80,000円）。また、最終金額調整で、正職員に一時金として岡崎41,800円、市野与進4,3000円を3月に支給。

- ・処遇改善等加算Ⅱ（本年度から新設） 月額5,000円～40,000円の手当。最終金額調整で、市野与進の月額40,000円未満の専門リーダーと月次支給対象外職員に一時金支給。

（処遇改善等加算Ⅱは、園長、主幹保育士という階層に加え、新たに副主幹、専門リーダー、分野別リーダーという職員の階層化により、この階層の待遇改善を図り、3年後までにキャリアアップ研修を受講することが義務付けられています。当法人の職員も、順次計画的に受講することとしています。）

2018年に「保育所保育指針、認定こども園教育保育要領」の改訂が予定されていたことから、年度当初、関西大学の山縣文治教授をお呼びして、「保育所保育指針、認定こども園教育保育要領」の勉強会をしました。その後、保育団体等の勉強会もありましたが、重ねて勉強することにより、保育・教育を担当する職員としての研鑽を深めることができたと思います。また、年度末には、「松溪会実践研究発表会」を行い実践研究の場を持ちました。各園では、関係団体等の開催する研修会に積極的に派遣し、担当業務の質の向上に努めています。

各事業の進捗について

各事業報告については、特記すべき事業内容についてご報告します。

主たる事業である保育事業については、先に示した通り浜松市、湖西市ともに依然としてニーズが高い状況が続いています。特に浜松市からは、定員増の期待もあったことから、**市野与進こども園**は本年度事業として「市野与進こども園増築工事」及び「既存建物改修工事」を実施しました。40人定員増のための鉄骨

2階建ての保育室の増設と、既存厨房の改修を中心に保育室等の改修工事も行い、予算内の14,450万円で予定通りに終了しました。この結果市野与進こども園(幼保連携型認定こども園：2号認定3号認定)は定員180人となりました。経営的にも順調に推移しています。

岡崎保育園は移転改築後5年が経ち、拡張した園庭に本年度は新たな遊具を設置しました。また、幼保連携型認定こども園に移行する方針で湖西市との協議を重ね、このための事務的な準備を進めた結果、2018年度より「幼保連携型認定こども園おかさきこども園」(1号認定定員6名を含む定員126名)となりました。1号認定の受け入れなどの変更を通じて、地域の様々な保育ニーズに応えていきます。本年度は年度の前半に低年齢児の入園が少なく、年度当初経営的に厳しい状況でしたが、後半には持ち直すことができました。認定こども園への移行により収入構造も向上するものと期待されます。(下表：全国資料との比較)

また、岡崎保育園が5年前の移転改築計画時には、隣地の湖西市ごみ焼却場はいずれ取り壊す予定とされていたために、現在の場所に移転を決定しましたが、市は今年度になり2024年よりごみ焼却場の再開を議会で検討し始めました。このことについては、今後も市と協議を重ねていく予定です。

学童保育は各地で待機児童が増えています。放課後児童クラブ秋津では、本年度に職員体制の充実を図り計7名体制となりました。定員以上の要望が多く、市との協議の結果2018年度より従来の1クラスを2クラス(赤とんぼ55人、銀やんま25人)に変更しました。

岡崎保育園、市野与進こども園の経営

全国統計・平成28年度決算との比較(幼稚園・保育園・認定こども園等の経営実態調査内閣府平成30年3月)

	保育所		幼保連携型認定こども園	
	岡崎保育園 (事業活動収 支計算書)	全国統計(平成28 年度決算) 私立保育所(3/100 地域 328施設)	市野与進 こども園 (事業活動 収支計算書)	全国統計(平成 28年度決算) 私立こども園 (3/100地域 134施設)
定員	120人	99人	140人	158人
平均在園数	143人	103人	154.5人	157人
人件費率(人件費/サービス 活動収益)	74.7%	76.9%	67.2%	71.7%
収支差率(サービス活動増減 差額/サービス活動収益)	6.7%	6.2%	12.3%	9.9%

※全国統計は1年前の平成28年度決算に関する資料。